

# 防災情報と取るべき行動

災害の危険が起こりうる気象状況に対して、糸魚川市や気象庁などから5段階の警戒レベルを明記して防災情報を発信・発令します。速やかな避難行動ができるように日ごろから確認してください。

警戒レベル	気象庁等の情報		糸魚川市の対応 <sup>※2</sup>	
5	大雨特別警報	災害切迫	氾濫発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない
警戒レベル4までに必ず避難!				
4	土砂災害警戒情報 高潮警報 高潮特別警報	危険	氾濫危険情報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)
3	大雨警報 洪水警報 ※1 高潮警報に切り替える可能性が高い 注意報	警戒	氾濫警戒情報	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)
2	大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報 大雨注意報 洪水注意報 高潮注意情報	注意	氾濫注意情報	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)
1	早期注意情報 (警報級の可能性)			・心構えを一段高める ・職員連絡要員配置

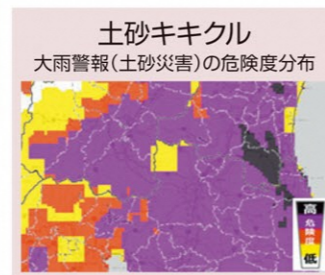
気象状況	市民が取るべき行動		警戒レベル
数十年に一度の大雨	命の危険 直ちに安全確保! 何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。	●周囲の安全に配慮し、避難所等へすぐに避難 ●直ちに命を守る行動をとる ・避難所等へ避難する ・外出することが危険な場合は家の2階など安全な場所に留まる	5
警戒レベル4までに必ず避難!			
▲▲	危険な場所から全員避難 避難指示が発令されていなくてもキキクル(危険度分布)や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をしてください。	●市などが発表する避難に関する情報に注意 ●必要に応じて速やかに避難	4
大雨の数時間～2時間程度前	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の方も普段の行動を見合わせ始めたり、キキクル(危険度分布)や河川の水位情報等を用いて避難の準備をしたり、自ら避難の判断をしたりしてください。	●非常用持ち出し品の点検・準備 ●避難の準備をする。危険な場所に近付かない	3
大雨の半日～数時間前	自らの避難行動を確認 ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。	●窓や雨戸など、家の外の確認 ●避難所等の確認	2
大雨の数日～約1日前	災害への心構えを高める 最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高めてください。	●気象情報に気をつける ●テレビ、ラジオ、携帯電話、市や気象庁のホームページなどから最新の気象情報を入手する	1

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。  
 ※2 気象庁等と糸魚川市が取る対応(対象範囲・タイミング)は異なることがあります。

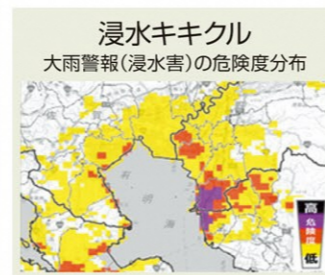
気象庁「5段階の警戒レベルと防災気象情報」(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/ame\_chuui/ame\_chuui\_p8.html)を加工して作成

## 気象庁 キキクル [危険度分布] とは?

テレビやラジオなどの気象情報で注意報や警報が発表されるなど、大雨による災害が発生するおそれのあるときや、急に激しい雨が降ったときは、このページにアクセスし、最新の情報を入手しましょう。大雨による土砂災害の危険度分布は「土砂キキクル」、短時間の強雨による浸水害の危険度分布は「浸水キキクル」、河川の洪水災害の危険度分布は「洪水キキクル」で、確認することができます。



画像:気象庁



キキクル

検索



スマートフォンから確認できます



災害発生の危険度を5段階に区分し、それぞれ色分けして地図上に表示して、どの場所で、どのくらい災害の危険度が高まっているか、数時間先までの危険度を知らせる情報です。危険度の情報は10分ごとに更新されますので、こまめにチェックすることで、危険度の高まりを早めにキャッチすることができます。大雨が降ったとき、避難する際の判断にお役立てください。

「キキクル」における危険度の例

高	災害切迫	【警戒レベル5相当】	→	災害がすでに発生している可能性が高い
危険度	危険	【警戒レベル4相当】	→	今後重大な災害が発生する可能性が高い
低	警戒	【警戒レベル3相当】		
	注意	【警戒レベル2相当】		
				今後の情報等に留意